

Mマガジン・サポーター(店舗情報の詳細は「音楽好きな友の会」公式ウェブサイトにてご確認ください)

●公共機関

- 区役所
会館
郵便局
音楽教室
花屋
鉄板焼
ヘアサロン
カフェ
果物
パン
コーヒー専門
イタリア料理
カイロ、整体
音楽教室
コインランドリー
理容室
接骨院
ヘアサロン
デザイン制作
カフェ
時計・貴金属

●元住吉東口(オズ商店街通り)

- ベトナムウィッチThao'
みずたま介護ステーション元住吉
金子園
和式整体&整心の「響氣」
ツグイ
凸つと凹つと
網島街道薬局
粋い仙ん
自在屋
ステーキラム元住吉店
cafe OrangeBlue
ENEOSダイヤ商事

●元住吉近郊

- 喫茶室
武蔵小杉近郊
喫茶店
喫茶店
紅茶専門店
東横線沿線
調剤薬局
写真
レストラン&バー
調剤薬局
カフェレストラン
ジャズ喫茶

- 中原区役所5Fなかはらっぱ
川崎市国際交流センター
川崎市生涯学習プラザ
かわさき市民活動センター
川崎井田郵便局
川崎ブルーメン通郵便局
川崎木月郵便局
川崎木月大町郵便局
かわさきFM
SouleaveMusic School
Bianca
ゆうき亭
キャメルヘアデザイン
水谷珈琲
フルッコ
リップル
MUI
オステリア ボッカーノ
ABCカイロプラクティック
島倉 学ミュージックスクール
マンマチャオ元住吉店
Hair Salon Airs
井田名倉堂・栗山接骨院
波照間
アルケファクトリー
フォレストコーヒー
つだとけいてん

- シンプォニー
Cafe TEMO(デモ)
Coffee Spot Life(ライブ)
Tea House ローズマリー
駒沢通り薬局
PHOTO SHOP 銀嶺
Public House ぴあにしも
オレンジ薬局川和町店
カンファ-ツリー
マシュマロ

※上記サポーター記載は無料です。

M MAGAZINE 発行人 塚田親 スタッフ 浅井晴香 発行音楽好きな友の会 TEL:090-9398-2889 2018-10-15 800 PrintingRk



MAGAZINE

●Motosumiyoshi●Music●Mate●Meet●Memories

後援:「音楽のまち・かわさき」推進協議会
公益財団法人 川崎市国際交流協会
人形劇団ひとみ座/rk-factory

元住吉の気軽な音楽会



November
2018 11月号

11月 4日(日) 13:30~
11月18日(日) 13:30~
音友レコード倶楽部
フルッコ2F 音友ハウス

11月11日(日)
元住吉の気軽な音楽会
街角ライブコンサート
第1部: 13:30~15:30
高橋明子&永瀬晋
アコースティックJAZZライブ
第2部: 18:30~20:30
浅井晴香
&JAZZフレンドリー・ライブ
フルッコ2F 音友ハウス

11月20日(火) 12:10~
ランチタイム・ロビーコンサート
川崎市生涯学習プラザ

11月25日(日) 13:00~
ふれあいアフタヌーンコンサート
川崎市国際交流センターホール

【ジャンゴ・ラインハルト】ベルギー生まれのジャズ・ミュージシャン。ギタリスト。ロマ音楽とスウィング・ジャズを融合させたジプシー・スウィングの創始者として知られる。短い生涯の中で後世のミュージシャンに多大な影響を与える多くの傑作を発表した。やけどの影響で左手に麻痺が残ったため、メロディを弾く時は主に人差し指と中指で弦を押さへ、薬指と小指はコードを強く際に高音弦を押さえるのに用いる程度であった。演奏は、技巧の面だけでなく表現力の面でも評価が高い。フィンガー・ピブラートは「ギター界で最も叙情的」と評された。(ウキヘディアより)

M MAGAZINE 2018 NOVEMBER ISSUE

田島華乃のお知らせ



第16回 ふれあい
アフタヌーンコンサートに
田島華乃が出演します!

日時 2018年11月25日(日)

開場13:30/開演13:50(終了予定16:00)

入場無料

場所 川崎市国際交流センターホール

川崎市中原区木月祇園町2-2 TEL.044-435-7000

出演 1部/ゴスペルコーラス スローヴォイス

2部/ヴァイオリン 田島華乃(共演:ピアノ片山裕子)

主催 住吉地区社会福祉協議会 青少年福祉部



お問い合わせ:
社会福祉協議会事務所
TEL 044-722-5500

2部 田島華乃演奏予定曲

◎エルガー「愛の挨拶」

イギリスの作曲家エドワード・エルガーの作品12は、1888年に婚約記念に花嫁に贈った曲で、エルガーの作品中では初期のもの。エルガーはピアノ独奏用、ピアノとヴァイオリン用などいくつかのスコアを残した。またエルガーの作品の中では行進曲「威風凜凜」第1番や第4番に並んで有名で、優美な曲想が幅広い支持を集めた日本人演奏家の間でも、とりわけ女流演奏家のレパートリーとして人気の高い小品である。

◎エルガー「朝のうた」

イギリス作曲家エドワード・エルガー作曲の作品15-2は、1889年から1890年頃に作曲されたヴァイオリンとピアノのための楽

曲。エルガーは本作の旋律を1918年の弦楽四重奏曲の第2楽章にも引用。原曲版と管弦楽版が最も知られるが、他に作曲家自身によるチェロやヴァイオリンとピアノのための編曲、オルガン版もある。また楽曲「夜の歌」作品15-1としばしば比較される。深遠さは求めるべくもないが、清々しい旋律の魅力により人気を獲得している。◎パッヘルベル「カノン」ドイツの作曲家、ヨハン・パッヘルベルが1680年頃に作曲したカノン形式の作品。3つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジーク 二長調」の第1曲。この曲は、パッヘルベルのカノンの名で広く親しまれており、パッヘルベルの作品のなかで最も有名

な、そして一般に知られている唯一の作品である。クラシック音楽の入門曲、卒業式や結婚式、離任式のBGMとしてもポピュラー的に聞くことが多い。

◎シューマン「トロイメライ(夢)」

ドイツの作曲家シューマンが1838年に13曲から成るピアノ曲集「子供の情景」を作曲。その中の代表作が第7曲「トロイメライ」である。各種楽器用に編曲も幅広い。中声部に複雑な和声進行をすることで幻想的な音響を形成するのは作者の常であるが、曲想と一致して最も効果をあげた作品。4小節の旋律が上昇・下降して聞きやすく優しい夢見のようなメロディーラインを作っている。

※今月の「マのおひでで聴くヴァイオリンコンサート」の「かののこい」は都合によりお休みさせていただきます。

川崎市国際交流センター

(後期)英語による国際理解講座 ~中上級者(16才以上)対象・英語による講義/Q&A(通訳なし)~

- 11月10日(土)10:30~12:00
From Mexico to Japan: getting out of 'Comfort Zone'
12月1日(土)10:30~12:00
Food Culture of Sri Lanka
11月17日(土)10:30~12:00
The Science of Beauty-less than an opinion

お問い合わせ
(公財)川崎市国際交流協会
TEL 044-435-7000
FAX 044-435-7010
E-mail:kawasaki@kian.or.jp
川崎市中原区木月祇園町2-2
元住吉駅から徒歩10分

音友ハウス 元住吉駅西口徒歩1分、フルッコ2F

元住吉の気軽な音楽会・街角ライブコンサート

日時:2018年11月11日(日)

★第1部:高橋明子&永瀬晋アコースティックJAZZライブ

開場:13:00/開演13:30/終演予定:15:30

出演:高橋明子(ヴォーカル&キーボード)、永瀬 晋(ギター)

★第2部:浅井晴香&JAZZフレンドリー・ライブ

開場:18:00/開演:18:30/終演予定:20:30

出演:浅井晴香(ヴォーカル)、松本泰夫(ウッドベース&ポカール)、永瀬 晋(ギター&ベース)
嶋村純弥(カホン)

参加費:1部、2部 各:¥1,500

場所:共に「音友ハウス」

セッションタイムあり
楽器と譜面をお持ちになって
参加して下さい!

お問い合わせ
音楽好きな友の会
コンサート担当
TEL 090-9398-2889
E-mail:info@ontomo.jp
川崎市中原区木月1-35-1
フルッコビル 2F



川崎市生涯学習プラザ 1階ロビー

第71回 ランチタイム・ロビーコンサート

11月20日(火) 12:00開場/12:10開演/12:40終演予定/料金:無料

どなたでも気軽に音楽を楽しめるアットホームなコンサート

- 出演:
妃城みれい(キシロミレイ)
プロフィール:
4歳よりエレクトーン、8歳よりピアノ、12歳よりフルートを始め、15歳でヤマハ演奏グレード5級を取得。音楽事務所のオーディション合格を経て都内レストラン等のピアノ演奏業務に従事。2017年春より21世紀日本生まれの弦楽器ヴァイオリンのソリストとして演奏活動を開始。
【曲目(予定)】
~ヴァイオリンの音色で紡ぐミュージカルの名曲~
①踊り明かそう
②チム・チム・チェリー
③ジャレ・ウィ・ダンス
④見上げてごらん夜の星を
⑤愛の讃歌
⑥オペラ座の怪人メドレー

お問い合わせ
(公財)川崎市生涯学習財団
総務室企画情報係
ロビーコンサート担当
TEL 044-733-5811
E-mail:concert@kpal.or.jp
川崎市中原区今井南町28-41



「音友会」の活動拠点は
元住吉駅西口徒歩1分、
フルッコショップ「フルッコ」2F。
音友ハウスです。

音楽好きな友の会
http://ontomo.jp/

中原区木月1-35-1 フルッコビル 2F
レコード倶楽部・コンサートのお問い合わせ
ontomo.jp
090-9398-2889(担当:塚田)

島倉 学ミュージックスクール
歌が人生を変える
音楽は決して貴方を裏切らない
驚くほど歌い方が上達する
「島倉 学メソッド」

島倉 学ミュージックスクール
プロ志望専門ヴォイス・トレーニング
30分無料体験レッスン実施中!
【レッスンスタジオ】元住吉駅西口 徒歩5分
島倉音楽スタジオ
〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月3-35-1 ART FLATS B1F(106F)
【お問い合わせ】
島倉音楽事務所
代表 島倉 学
営業日:火曜~土曜 12:00~21:00
定休日:日曜・月曜
TEL 044-567-5940

連載26 私とジャズ 松波陽介

言葉と音楽2

本格的に夏が終わり、秋の訪れを感じつつある季節になってきましたね。気が付けば今年もあと残すところ2ヶ月となり年末に向かって忙しなくしている様もなんとなく風情があってよいな、と思う今日この頃です。

そして今も引き続き外国から見た日本(の音楽)と題して少々小話にお付き合いください。ふとある時に先月号で紹介した件のベトナムからの外国人留学生に私のお気に入りの日本のバンドについて紹介したことがあったのですが、聴き始めてすぐに「つまらない!」と言われてしまいました。(笑)僕としても大人気なくムキになって「どういことだ!」と聞き返してしまっただけですが、丁寧に理由を教えてくださいました。日本のポップスミュージックはベース、コーラス等の区別が曖昧でメロディーが平坦だ、ということでした。そこ

で引き合いに出されたのが「Marvin Gaye」と「Tammi Terrell」による“Ain't no mountain high enough”という曲でした。確かに、曲を聴いていくとこの部分がベースでコーラスとハッキリとした区分がされているし、コーラスの部分で盛り上がる、若しくはその予兆のようなものが分かるのです。また、これは言語的な制約等があるかと思いますが、メロディーも言葉に合わせて抑揚があるような感じにも聞こえてきました。普段あまり意識をして聴いていなかったのですが、なるほど日本の音楽は日本語と相まってそのような特徴があるのかということに気付いたのです。そして更に驚いたことは、留学生の彼が特にこれといった音楽的な教育を受けたわけでもなく、このようなことをきちんと分析できて説明が出来たという事です。



▲CRCK-LCKS「Double Rift」私が紹介したバンド

昨今、私たちの周りでは音楽に触れる機会はテレビでもそうだし、どこかの喫茶店に行ってもそうだし、はたまた居酒屋にだって行っても音楽は溢れかえっています。しかしながら、こんなに音楽に囲まれた生活をしていてもそのような考えを持つ人はきつと少ないと思います。(もしかしたら皆さんはそう感じているかもしれませんが…)彼がどういったことでそのように感じたかはまだ分かりませんが(日本語が流暢ではないので完全なコミュニケーションがとれないので…笑)音



Marvin gaye&Tammi terrell「Ain't no mountain high enough」▲紹介してくれた曲のLP

連載23 4ビートに首ったけ

秋の夜長にピッタリ。

自宅のオーディオでゆっくり聴きたいテナー・サクスをどうぞ。

地元マスターのジャズ談話 BIANCA店主 長谷部 徹

ラジオが好きです。通勤の車中では毎日インターFM89.4を聴いています。以前、お気に入りのDJのひとり、ピーター・バラカンさんの番組で、「Music to stay home for」と言うコーナーがありました。「家に居る時間を快適にする為の音楽」とでも訳せば良いのかな?今日は私もそんな趣旨で、秋の夜長、自宅のオーディオでゆっくりと楽しむのにピッタリなアーティストを選んでみました。

今回ピックアップしたのは1934年、アメリカ、ピッツバーグ生まれのテナー・サクソ奏者スタンリー・タレンタインです。彼のテナーの魅力と言えば、男らしく豪快なトーンで堂々と吹きまくるところではないでしょうか。小難しい事は抜きにして、ひたすらストレートに力強くブローする姿に心を奪われてしまいます。

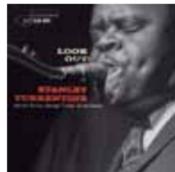
まず1枚目にご紹介するのは、彼の初リーダーアルバムにして、既にスタンリー節満載の傑作「LOOK OUT」(写真①)。タイトル曲である1曲目「Look Out」

から素晴らしいショーが始まります。何と言うか、昔、ジャズ喫茶に入ると、そこでかかっていたような曲です。太いテナーが響き渡り、歯切れ(?)の良いフレーズのオンパレードで期待を裏切りません。2曲目「Journey Into Melody」は打って変わってスローなバラード。白黒のフランス映画で男女が季節外れの海岸を散歩している時にバックで流れているような、そんな切なく綺麗なメロディーです。そして1番のお気に入りには6曲目「Minor Chant」。マイナー調のテーマから続くアドリブがスムーズでメロディーの洪水です。そしてこのアルバムはバックのリズムセクションが素晴らしい!特にピアノのホレス・パーランは独特で、闇の奥底から湧き上がってくるような、重くおどろおどろしいピアノは誰にも真似できない迫力です。ベースのジョージ・タッカーもかなり強烈なので油断しているとやられちゃいますよ。

2枚目にご紹介するのは1962年録音、「THAT'S WHERE IT'S AT」(写真②)。1枚目よりソウルフルでアーシーな雰囲気です。このアルバムは聴きどころは何と言ってもピアノのレス・マクキャン。彼の作曲も4曲あって、特に1曲目「Smile, Stacey」はファンキーでゴキゲンな仕上がりです。そして、是非聴いて欲しいのは6曲目「Light Blue」。この曲はとにかく隅から隅までカッコいい。レス・マクキャンのアドリブも素晴らしい!一見どこにでもあるような何気ない演奏なのですが、何度も聴いていると、歌心がありクールでファンキーで、しみじみ良いのです。この1分間のアドリブだけで彼のファンになってしまいました。尚、私のCDではこの曲の別テイク入っているのですが、それがまたまたイカシイで、完成度は本テイクに譲りますが、時々キラキラと輝くようなフレーズやプレイが出てきてハッとさせられます。

最後にご紹介するのは、1973年録音「DON'T MESS WITH MISTER T.」(写真③)。CTIレーベルの作品の為、かなり売れ線を狙っていて、フュージョンっぽいので、根っからのジャズ好きの方は眉をひそめるかもしれませんが、理屈抜きに楽しめるアルバムです。ボブ・ジェームスのアレンジ、ロン・カーター(b)、エリック・ゲイル(g)、リチャード・ティ(keyb)など、超一流でバックを固め、タレンタインがひたすらブローしまくる。楽しく無い訳が無いですよ。最高にカッコいいのは1曲目「Don't Mess With Mister T.」。黒々とした怪しげなイントロはどこか洗練された感じがして、「もう、60年代の音では無いのだから」と思ってしまう。最後の曲まで隙間なく楽しめる当りは、プロデューサーのクリード・テイラーに脱帽です。

どうですか、家でゆっくりできそうですか?深いソファに身をゆだね、眠りにつく前の45分、スタンリー・タレンタインのテナー・サクソをたっぷり浴びてみて下さい。煩わしい事を忘れ、本当の自分に少し近づきましょう。



▲① Look Out/Stanley Turrentine



▲② That's Where It's At/Stanley Turrentine



▲③ Don't Mess With Mr T./Stanley Turrentine

Jazz & Light Music

音友レコード倶楽部Report ONTOMO MUSIC RECORD CLUB ACTIVITY REPORT

音友会Report 2018年9月音友会 フレドリック・ジョーンズ

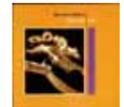
軽音楽(Light Music)もテーマでコンサートがスタート

9月の開催は両日とも私が担当で進行。今後の軽音楽もテーマを決めて開催しディスクジョッキーは私が担当します。最初の栄えある軽音楽(Light Music)第1回目は、1970年代後半より1980年代に一世を風靡したプリティッシュ・ジャズ・ファンク・グループの中より私が好きだった「モリッシー・マーレン」というグループの特集をしました。当時流行っていた「シャカタク」、「レベラ42」などと同様な音楽で簡単に言うとダンスンブルなリズムに乗せたダンス・ミュージックです。まずはこのグループのリーダーである二人の音楽経歴から紹介していきます。

元々、ジャズ・ミュージシャンでソニー・ロリンズの様にバリバリ吹きまくるジャズ・テナー・マンであったデック・モリシー(テナー・サクソ)は何故か1968年にジャズ・ロックグループ「イフ」を結成し、7枚のアルバムを発表後に解散。片やウェス・モンゴメリー系の素晴らしいギターを弾くジム・マーレン(ギター)は昔、「アヴェレージ・ホワイト・バンド」の一部のメンバーとバンドを組んでいたたり、「ブライアン・オースター・オブリアヴィオン・エクスプレス」、「ココモ」というジャズ・ロックグループに在籍していました。この二人が「アヴェレージ・ホワイト・バンド」のアメリカ

ンツアー参加時に意気投合し、1975年にこの「モリッシー・マーレン」をグループ結成した事は自然の成り行きだったかもしれませんが。その後1988年に7枚目のラスト・アルバム「ハッピー・アワー」発表までグループを継続しました。今回はその7枚のアルバムよりピックアップして10曲ほどをかけたが、なかでも4枚目「ライフ・オン・ザ・ワイヤー」(写真①)と5枚目「イッツ・アバウト・タイム」(写真②)は女性ボーカルが入り、私が好きな絶頂期の作品で現在カプリングされCDで発売されています。このグループ特色は何と云ってもデック・モリシー

のテナー・サクソとジム・マーレンのギターによるテーマ部のユニゾン演奏で心地よい事この上なしです。また、参加者の方々が持参したアルバムは「ケニー・ランキン・アルバム」(写真③)、グループサウンドで懐かしい寺内タケシの「世界はテリーを待っている」(写真④)から「世界は日の出を待っている」、J-POPはもちろん、ジャズシンガーとしても有名な弘田三枝子「スタンダードを唄う」(写真⑤)からスタンダードナンバーの「マック・ザ・ナイフ」などいくつかの曲を鑑賞致しました。



▲① Life On The Wire/Morrissey Mullen



▲② It's About Time.../Morrissey Mullen



▲③ The Kenny Rankin Album/Kenny Rankin



▲④ 世界はテリーを待っている/寺内タケシ&ブルー・ジーンズ



▲⑤ スタンダードを唄う/弘田三枝子

Jazz Date(ジャズファンの集い) 低音楽器の魅力・その1 バリトン・サクソ編



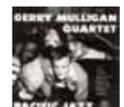
▲ジェリー・マリガン

今月のテーマは、低音楽器の内、バリトン・サクソの第一人者であるジェリー・マリガンを取り上げました。マリガンというと初めはクロード・ソーンヒル楽団にアレンジャー兼プレイヤーとして所属。マイルス・デイビスと交流のあったギル・エバンスもその楽団に所属していたことから有名なマイルス九重奏団(「クールの誕生」)に参加し、ここでもアレンジャー兼プレイヤーとして手腕を発

揮しました。その後、マリガンはニューヨークからLAに移住し、パシフィック・ジャズ・レコードの創設者リチャード・ボックと出会い、チェット・ベーカーらとオリジナル・ジェリー・マリガン・カルテットを結成する事になります。また、1960年には念願のビッグバンドも結成し、1962年までヴァーヴレーベルに5枚のアルバムを残す事になりました。ただし、マリガンはあくまでもコンボ編成にこだわる活動を継続しました。当日はこのコンボ編成の内、6枚のアルバムから「バーニーズ・チューン」(写真①)、「プレリウド・Eマイナー」(写真②)などの代表曲をピックアップして聴いてもらいま

した。また、曲と曲の合間にオリジナル・ジェリー・マリガン・カルテットがピアノレスになった経緯や曲のエピソード等を織り交ぜて解説させていただきました。マリガン・サウンドの根底には、やはりピクニックバンドにおいてアレンジャーとして培われた経験が随所にうかがわれます。テーマ部においてはバリトン・サクソとトランペット、トロンボーンという楽器の絶妙な音色のからみがあり、アドリブに入ると片方の楽器が相方のソロのバックアップをとるといったビッグバンドならではの手法を用いています。今回レジメに記載していたにもかかわらず、一部、都合により聞けなかった曲もあり、その曲

については次回以降に鑑賞したいと思っています。また今月、新たに参加された方が持参のCD、1949年に録音された「JATPカーネギーホール・ライブ」(写真③)より「Leap Here」を鑑賞。それ以外にも「アーリー・オータム」のジョージ・シアリングとウディ・ハーマン楽団の聴き比べ、そして貴重な米RCA Victorの10"LPで男性ボーカルのエディ・フィッシャーによる「I'm Just A Vagabond Lover」、「You Call It Madness But I Call It Love」(写真④)、スコット・ハミルトンとエディ・ヒギンズの「My Foolish Heart」(写真⑤)等を鑑賞しました。



▲① Gerry Mulligan Plays Mulligan



▲② Night Lights/Gerry Mulligan



▲③ J.A.T.P. Carnegie Hall 1949/Norman Granz



▲④ May I Sing To You/Eddie Fisher



▲⑤ My Foolish Heart/Eddie Higgins & Scott Hamilton

11月4日の軽音楽 ニール・ラーセンとその仲間たち



ロックでは珍しいオルガニストのニール・ラーセン。今月は朋友バジー・フェイトン(Gt)とのバンド「フルムーン」を含め、その周辺にスポットを当てて聴いていきます。

11月18日のJazz Date(ジャズファンの集い) マイルスとコルトレーンの出会いから別れまで

2018年はマイルスとコルトレーンそれぞれの未発表曲を含むアルバムが発売されるなど、いまだに巨匠2人の人気は衰えを知りません。この二人の出会いから別れまでの5年間に吹き込まれたアルバムから名演の数々を聴いてみましょう。



Essay 「くじら座」日記 牧野ケント

雨の街を

曲をつくる上で最も大切なものは葛藤だと言える。幸せな自分を目指すため、現状に満足しない心のわだかまりを放出するとき、心を打つモノができる。音楽の起源もそんなところにあるのではないかと思う。

こんなことを話しているミュージシャンがいた。「曲をつくることは、宙に浮いている言葉をやっとなぐって紡いでゆくように」。直接的な言葉を並べる歌詞は、意味はすぐにはわからないけれど芸術的とは言いにくい。言葉と言葉を紡いだときにできるその「隙間」に、どれだけ景色を入れられるかが歌詞の奥深

さを決める。歌を聴いて、自然とリスナーに考えさせる歌詞を書けるミュージシャンこそアーティストであると思う。しとしと降り注ぐ雨。夜明けの街を傘を差しながら歩くと、「雨の街を」というユーミンの曲がとても心地良い。感傷的に、それでも前向きに、この曲は様々な景色を思い出させてくれる。そんな芸術が僕は好きだ。葛藤に揺られてきた僕の



▲演奏中のくじら座。左から牧野ケント、牧野ケント。

暮らしも、間もなく変わりそうだ。これまでとは違った暮らしが待っている。小雨の中を濡れないように歩いてきた。心を濡らさないように、必死に隠して歩いてきた。静かな街の夜明けは近い。シ

ンガーソングライターという、常に葛藤を抱える仕事を全うするべく僕は濡れるか濡れないかの境界線を歩いている。

Essay Addicted to Guitar-7 永瀬 晋

ブルースベースライン

お世話になっております。今月もまたギターを始めたばかりの方にお勧めなギター小ネタをソウリーヴ・ミュージック・スクール永瀬がお送りいたします。しっかりと秋を感じられるようになってきました。秋の夜長は皆さん新しいことに挑戦させる方が増えると思いますが、教室も入会の方が増えております。そこで今月のおすすめフレーズの紹介でございますギターに関し

ましては、始めたときに直面する問題として「指が動かない」というお話をよく聞きます。毎日エクササイズフレーズを進めていっても良いのですが、やはり退屈さは否めませんので、ちょっと曲っぽいエクササイズをご紹介します

と思います。今回のテーマは「ブルースベースライン」です。少し音階の範囲も広く弾くのは大変かもしれませんが、曲を弾いている感じが強いので、結構続けられると思いますよ。参考演奏は

Tommy Emmanuel"Guitar Boogie"をチェックしていただくと思います。では秋も楽しいギターライフをお楽しみください!



ソウリーヴ・ミュージック・スクール Souleave Music School http://souleave-music.com/ 元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分 チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992 AM8:00/PM22:00start